様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：２８００３
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０８２４

研究課題名（和文）沖縄県北部地域における字文書の保存状況と字誌への活用方法に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on Conservation Condition and Application to Journals of the Written Documents in Northern Okinawa Prefecture

研究代表者
中村　誠司（NAKAMURA, SEIJI）

名桜大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：３０２７９４２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,300,000円、（間接経費）　390,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、沖縄における字誌づくりに字文書資料を活用することを目的に、沖縄北部地域の今帰仁村兼次の字文書資料約1900件を整理し、字文書の実態と利用可能性を検討した。字文書資料の整理には多大な作業量を要するが、その利用によって、字誌の内容は精度を高め、豊かになる。さらに、上位の地域史（市町村史）、とくに戦後生活史研究に良い作用を及ぼすであろう。従来、字文書資料の評価と活用は低かったが、今後その発掘と活用に取り組む必要がある。

研究成果の概要（英文）：The project is to examine the actual conditions and their potential for contribution to Aza-shi(Aza history)*. We studied around 1900 Aza-documents from Kaneshi of Nakijin-village in northern Okinawa. It requires enormouse time and effort to organize Aza-documents, but the findings would enrich Aza-shi with more accuracy. Moreover, the Aza-documents would give important informations to history studies of larger local divisions(city, town, and village history), especially on post-war daily life history. Aza-documents have not been properly appreciated and it is important to discover and utilize Aza-documents in the future.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：沖縄　北部地域　今帰仁村　字文書　字誌　地域史　市町村史　研究方法論

１．研究開始当初の背景

(1)　地域史づくりが盛んな沖縄において「字誌ｱｻﾞｼは沖縄に特徴的な最少単位の地域史」として注目されてきた。文書史料がきわめて乏しい沖縄にあって、字誌は主として地域の先輩方の経験と伝承・記憶を基に記録・作成されてきた。1980 年代、筆者は名護市教育委員会に勤務し、名護市史編さん事業を担当した。その一環で“字誌づくり”の普及にも取り組んだ。その時期、名護市レベルで古い文書資料（地方ｼﾞｶﾀ史料）の調査・収集にあたったが、“字文書資料”の価値への理解は十分でなかった。

(2) 1990 年代にはいり、国頭村奥区との関係が多様になり、奥区を理解する過程で字文書資料が豊かに伝存されていること知った。沖縄・やんばるの地域史・字誌を調査研究する者にとって、量的にも系統的にもまとまりのある“奥の字文書資料”を整理（目録作成）することは意義ありと考えた。さいわい区長の理解のもと、膨大な戦後字文書資料の調査→目録作成を実施することができた。15 年ほど以前の経験である。

(3) 2000 年代はじめ、全琉の『字誌』を調査研究した。その際、字文書資料の伝存と利用にも少し関心をもった。その頃、「字誌の内容を豊かに精度を高める上で、字文書は重要資料である」ことに気づきはじめた。しかし、その価値に注目し活用する字誌づくりは稀であった。

２．研究の目的

(1)　字文書は、字常会等、字運営の記録（議事録）および帰属する市町村行政との受発文書が主で、沖縄戦後から字区長管理のもと、字公民館（字事務所）で保存されてきた。字文書の整理・保存状況は、字によりその量や状態も一様ではない。

(2)　本調査研究は、今後の字誌の内容充実に資することを目的に、字誌づくりが盛んで、字文書資料が比較的保存されていると想定される“沖縄北部（やんばる）地域”において、字文書資料の伝存状況を俯瞰し、特定字について字文書資料の整理～資料化を実施し、字誌づくりにつなげることを課題として取り組まれた。

３．研究の方法

(1) やんばる地域全体を俯瞰するため、12 市町村・全 188 字について、主要な字文書である“議事録と受発文書簿冊（公文綴）”を中心に郵送照会調査を実施した。その情報を基に、伝存状況の良好な字を数か所選び、字文書資料の整理と字誌への資料化と方法探究を進める段取りであった。しかし、この方法はうまくいかず、調査票回収率は１割未満であった。

(2) 今帰仁村歴史文化センターでは、村内の字公民館建設等で、字文書資料が廃棄される事態に対して、歴史文化センターに移管・保存する活動を重ねていた。筆者は、学生の卒論テーマ地域に今帰仁村兼次を設定し、歴史文化センターの配慮で兼次字文書資料の利用を始めた。このような関係と経緯で、段ボール３箱分の兼次字文書資料を長期借用することができた。

(3) それで、資料が利用できる今帰仁村兼次について、本研究テーマである字文書資料の整理～資料化に取り組んだ。資料化の方法は、文書１件ごとに“資料調査カード”を作成し、それらを“字文書資料目録（一覧）”に整理した。この作業は、予想した以上に膨大な作業量を要した。

(4) また、研究課題を相対化し、方法化に有意なヒントを発見するため、利用可能な名護市旭川、大宜味村饒波、国頭村奥の字文書資料を比較参照した。

４．研究成果

(1) 調査対象とした今帰仁村兼次の字文書は、1950 年から 1977 年の「公文綴」で、総計 1885 件である（下記一覧参照）。多くは１件１枚～数枚の文書である。１件について１枚の“資料調査カード”に採録した項目は、次の 15 項である。資料名／簿冊名／作成年月日／形式分類／内容分類／法量／紙数／料紙／差出（作成者）／受取（宛名）／関係地域／原本所蔵／保存状況／翻字必要性／関連・記載事項。調査カードは 12 冊のファイルに整理した。さらに、調査カード情報を資料目録（一覧）に整理したので、目録から文書内容の概略が把握できる。

(2) 元の「文書綴」タイトル（表題）と文書件数は次の通り。番号はファイル番号に対応する。“公文綴”は主に今帰仁村役所からの文書を綴る。1960 年代が欠けている理由は不明である。

1　1957 年 7 月以降「公文綴」　［147 件］
2　1957 年 1 月以降「公文綴」(仮)［92 件］
3　1958 年 1 月以降「文発送綴」［67 件］
4　1958 年度「公文綴」［132 件］
5　1970 年 1 月以降～1971 年 1 月以降「発送文綴」［87 件］
6　1970 年 1 月以降「公文綴」［212 件］
7　1971 年 1 月以降「公文綴」［201 件］
8　1972 年 1 月以降「発送文」［67 件］
9　1972 年 1 月以降「公文綴」［235 件］
10　1976 年 1 月以降「公文綴」［238 件］
11　1977 年 1 月以降「公文綴」［215 件］
12　1950～56 年「公文綴」［192 件］
計 1885 件

(3) 兼次という小さな字（シマ社会）の記録文書であるが、すぐれて具体的な戦後記録である。文書の大半は、今帰仁村との間の受発文書である。字常会の“議事録”文書は確認できなかった。

(4) 今帰仁村役所（村長）発の区長宛て文書は、多く他の字に共通し、村（役所）の行政行為と理解される。したがって、各時期の兼次文書から、今帰仁村レベルの事象や地域課題と動向を読み取ることも可能であろう。さらに、各種調査モノは沖縄県（琉球政府）各市町村に共通して実施されたと推測される。兼次の字文書は、このような視点と問題関心からも読まれるであろう。

(5) 多くはないが、兼次固有の文書も含まれる。家族調査資料や海外移住者への照会文書などもある。字固有の資料であり、採録にあたっては注意が必要である。

(6) 微細な事項の記録であるが、兼次字の“公的”文書である。ある時期ある時点を刻印する記録である。原文書はほぼ時系列にそって綴られている。それをどのような基準で分類し、グルーピングし、系統的に編集・配置するかは、容易な作業ではない。個々の文書・事象について、筆者の理解が十分ではないと考えるからである。筆者の兼次との関わりは長く深いが、個々具体の事項や事情を知る努力は浅い。幸い半世紀前に区長を経験した先輩が健在である。字文書情報を作業的に分類・編集して、先輩の指導を得ることで、兼次字誌の情報にしていく。

（7）今回、文書の整理＝調査カード作成作業において、文書の要点を“関連・記載事項”として摘記した。同時に“翻字の必要性”もチェックした。“できれば／できるだけ”翻字する、という目安であるが、欲張る傾向がある。翻字作業はきわめて膨大な作業量になるので、精選する必要がある。

(8) 字誌に字文書資料が利用されるのは、まだ一般的ではない。数少ない事例を紹介して、今後の参考にしよう。やんばるから、まず国頭村奥を見る。15 年ほど前、筆者も参加して、奥字（区）の字文書資料を調査させていただいた。一部戦前資料を含み、膨大な量の戦後字文書が箱に仕分けされ、いい状態で伝存されている。奥の字文書資料は、簿冊形態ではなく（別置？）、諸帳簿が大半で、約 280 点を数える。紙数は膨大に過ぎて、枚数を数えるのは無理であった。また、別に奥共同店の帳簿等が百数十冊あった。1986 年発刊の『字誌 奥のあゆみ』では、字文書はごく一部が利用された。

20 年後の『奥共同店　創立百周年記念誌』（奥共同店・2008 年）では、基本文書である奥区議事録・奥共同店議事録が翻字・研究され、『記念誌』に 280 頁分収録された。膨大な諸帳簿類の整理と資料化は困難な作業を要し、将来の課題であろう。ほかに議事録を資料化したのは、恩納村の「南恩納誌」第 1 巻『議事録』である。1943 年～1963 年の区議事録が翻字・収録された。

沖縄本島中部では、浦添市の「小湾字誌」が注目される。2006 年に『小湾議事録－占領期から祖国復帰へ』が刊行された。本書は“議事録”記録を実地調査・取材で検証して編集した字誌で、“読む資料集”として字文書資料を編集・紹介していて、その利用方法が注目される。

南部では、旧佐敷町の『津波古字誌』を採りあげる。本誌は丁寧な字誌調査研究の成果であるが、戦後の字文書（会議録）の原本をスキャナーして DVD に収録・作成している。これは字誌の新しい編集・表現であり、注目される。

以上、字文書の基本資料である「議事録」の利用・資料化のすぐれた事例を見た。一方、「公文綴」簿冊に綴られた、膨大な数量の小事象記録文書がある。この種の字文書の整理、および１件あるいは群としての利用は見られない。本研究で取り上げた今帰仁村兼次の字文書資料は、「公文綴」簿冊が大半なので、“議事録”とは別種の整理・分析方法を開発する必要がある。

(9) 微細な事象・記録文書を解読・評価し、分析・総合する方法を開発するには、膨大な整理作業と試行を必要とするだろう。

昨年度、名護市史編さん室では名護市旭川区の字文書約 2400 枚を複写（カラーコピー）し、１次的な目録作成を実施した。旭川区では字誌づくりに着手し、この字文書資料を利用する計画という。名護市史が字誌づくりと連携（サービス）を図り、字文書資料と本格的に取り組みはじめたことは注目される。通覧したところ、名護市旭川区の字文書と 今帰仁村兼次の字文書は近いタイプのようである。筆者は、双方に関わる位置にいるので、字誌づくりにつなげる、字文書資料の整理と分析～利用の方法を開発し、試行するには良い機会である。さらに、大宜味村饒波の字文書も利用可能性があるので、３字文書を比較研究しつつ、字文書資料の整理・分析～利用方法の開発と改良に取り組んでみようと思う。

(10) 字誌づくりに字文書資料を利用することによって、なにが見えてくるのだろうか。先述したように、地域史事象理解の精度を高め、豊かにし得るであろう。字文書資料の種類でみれば、“議事録”資料は字誌・地域史のいわば土台・骨格の情報といえる。また、“公文綴”の個々の小文書資料は、微細だが具体的・動態的な情報とみられる。

これまでの地域史のイメージでは、字“議事録”の情報だけでも、地域史理解を一挙に

深めるにちがいない。さらに、個々の小文書資料は、あたかも点描画の点のような役割を有するかもしれない。そして、それらは沖縄・やんばるの字＝シマ社会という小地域社会の地域史理解を具体的に深くしてくれるにちがいない。字（小地域社会）を単位とする、戦後地域社会生活史を理解しようとする際、字文書資料は有効な情報を提供してくれるであろう。

以上の理解と見通し（期待）に立つならば、字文書資料を評価し活用することで、沖縄の“字誌づくり～地域史研究”は、もうひとつ異なる広場へ歩むかもしれない。筆者は、そのような予感と期待をもって、この調査研究に取り組んできた。ただし、これまで述べてきたように、まだ作業量は多く、知恵と経験を傾注して開発すべき方法や過程の課題がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　０件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
中村　誠司（NAKAMURA, Seiji）
名桜大学・公私立大学の部局等・研究員
研究者番号：３０２７９４２